◆八木健選

～月城花風・第一句集『覆ふ和紙』を読む～

滑稽俳句協会の会員の月城花風さんが、文學の森から、同時に二冊の句集を出版された。句集の感想をオマージュで綴らせていただく。

✦ドカドカと花粉引き連れ春が来た

そこここの目鼻くすぐる杉花粉

この頃や涙もろくて花粉症

杉花粉子孫繁栄狙ひ飛ぶ

✦昼寝覚手帳の文字が踊つてる

現在地まず確認の昼寝覚

現在の時刻が不明昼寝覚

わたくしが誰だか不明昼寝覚

✦秋めいて肩が恥づかしがつてゐる

初秋のノースリーブの小旅行

控えめな性格らしき花風の肩

肩に風邪ひかさぬやうに着せてやれ

✦墓参り内緒話の亡父と母

夫婦喧嘩はもうやめたかと訊く墓参

水をさす墓前の父母の睦言に

父母は父母娘は娘盆談義

✦みるみると蜜柑の皮の山が出来

達成感蜜柑の皮の山にかな

やめられぬ愛媛蜜柑とかつぱえびせん

蜜柑の皮の利用を思案貧乏性

✦初詣願ひ絞れず長頼み

初詣願ひはおひとり三つまで

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

初詣多忙な神に思ひ馳せ

神様も無理難題に困り顔

✦塩水に吐く蛤の白き愚痴

しずかなる部屋蛤のひとりごと

焼かれるかあるいは酒蒸し蛤は

蛤に生まれしさだめ恨みつつ

✦藤棚や風が迷子になつてゐる

藤房の迷路に風の右往左往

藤房に恋した風のつきまとひ

藤房をさらつてゆかむと揺らす風

✦こほろぎの勝手口より御用聞き

こほろぎや返事まだかとじつと待つ

こほろぎに見られてしまひ寝ぼけ顔

こほろぎを食べる話は聞かぬふり

✦魔女乗せてママは走るよハロウィーン

ハロウィーンになじめぬ爺は南瓜食ふ

ハロウィーンに冬至南瓜がおかんむり

✦年賀状ちらりほらりと孫自慢

今年また齢を増やして年賀状

愛犬を真中の写真年賀状

愛犬は家族のかすがひ年賀状

✦木の芽時ききみみ頭巾を使ひたし

身中の虫騒ぎ出す木の芽どき

木の芽どき噂の耳をそばだてる

木の芽時だれかれ問はずＬＩＮＥして

✦寄鍋にけんくわの種も煮崩れる

寄鍋を丸く囲めば家族円満

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

雑炊を頬まるくして吹き冷ます

✦また同じ場所に店出す暦売

見覚えの客に声掛け暦売

おなじみの暦を飾る年の暮

✦子を寝かせ食べる鯛焼冷めてゐて

冷えきつて死骸のごとき鯛焼よ

鯛焼はレンジでチンで生き返り

✦まぜこぜの時間の中に目借時

貸した目を返してほしい目借時

大方は会議の山場に目借時

✦読みかけの本呑みかけの酒のどか

どの本も結末知らずのどかなり

読書でもお酒が先でもなくのどか

人生もまだまだ未完のどかなり

✦佐保姫と遊ぶ時間を予約する

佐保姫は売れつ子予定を押さへねば

佐保姫にＬＩＮＥがつながればいいが

佐保姫は俳人だけのものならず

✦小気味よく新米を研ぐ手首かな

新米の研ぎ方手首が覚えてる

張り切るや新米を研ぐ右手首

新米の研ぎ方にある熟練度

✦ただ指の覚ゆるままに編む毛糸

毛糸編む脳にいくつも悩み事

雑念があらうと迷はず毛糸編む

勤勉の手よ休まずに毛糸編む

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

＊オマージュ:作家や作品に影響を受け、似た作品を創作したり、モチーフとして作品をつくること。しばしば「リスペクト」（尊敬、敬意）と同義。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。